

寺だより

22/08/10
第105号

真宗大谷派
青龍山西光寺
珠洲市正院町正院

あしたが変わるトリセツシヨ― 仏教は人生のトリセツ?!



トリセツとはご承知のように「取扱説明書」のことです。電化製品や家具など、品物を購入すれば必ずついてきます。手に入れたものを安全に間違いないく使うための手引となるものです。

私たちの人生は決して平坦なものではありません。山あり谷あり、いいこともあれば思うようにいかないこともあります。そんな人生に仏さまの教えという「道しるべ」があれば、時に迷うことがあっても、大きく踏み外さずに生きていけることでしよう。

さて、私たちは、「あの人が悪口を言った」と言つてよく腹を立てます。しかし、悪口を言うのは向こうの勝手、怒るか怒らないかは、こちらの勝手なのです。でも、そうはいきません。きつちり

お付き合いをして、一晚中寝られないこともあります。

私たちは、自分の都合のよいものに対しては愛欲の心を起こし、自分の都合の悪いものに対しては憎しみの心を起こすのです。それも自分の都合によって、コロコロ変わっていくから太刀が悪いのです。

この心が身を煩わし、心を悩ますのです。その心によつて私たちは、どうしようもない苦しみの世界を描き出していくのです。これがなくなればよいのです。話はよく分かるのですが、分かっちゃいるけどやめられない、というのが現実なのです。

しかし、身を煩い、心を悩ます煩惱を恥ずかしいと言えるのは、仏さまに出遇っている証拠なのです。

日本人の持つている素晴らしい文化の一つが、恥ずかしいさを知るところです。恥ずかしい心が煩惱にブレーキをかけてくれるのです。

浄土真宗の教えの盛んなところでは、犯罪が非常に少なかったと言われます。もし、ブレーキの利かない車に乗ったら、自分が怪我をするだけではありません。人も傷つけます。だからブレーキが大事なのです。それは、誰かに言われ



だからそうするとかではなく、自らを律する「内なるブレーキ」でなければなりません。そして、そのブレーキとなるものが仏さまの教えだといえます。「人生のトリセツ・取扱説明書」は、私たちの身勝手な扱い方にブレーキをかけ、正しい方向に導くものです。

「トリセツ」は、手にして読まなければ何が書いてあるのか分からないのと同じように、仏さまの教えも聞かなければその素晴らしさは分かりません。

この頃はどうも人間にブレーキが利かないようになってきました。皆さんも一度、点検してみても如何でしょうか？

どうぞお寺の法要・法座にお参り下さい。

西光寺報恩講がやってくる

11月6日(日)～11月8日(火)

法話 信楽明生先生(三崎町杉山)

* コロナ禍ということで今年も御斎(オコサマ)は中止させていただきます。



報恩講 お参りのしおり

11月6日(日) 午後一時から

◆**速夜のお勤めと法話**

11月7日(月) 午後一時から

◆**大速夜のお勤めと法話**

両日とも、お勤めは「正信偈・真四句目下」です。

緑の本・同朋唱和勤行集を使います。お持ちの方はご持参下さい。



◆午後三時四〇分より『御伝鈔』拜読



令和2年度御伝鈔練りだし

本堂を暗くし、袂を着けた二人の門徒さんが大きな朱ローソクの灯りをささげて、その後ろには、『御伝鈔』が入った箱を持った門徒さんと、お袈裟を着けた

拜読の僧の四人が、ゆっくりゆっくりと左手の余間から外陣へ降り、阿弥陀さまの前を横切つて右手の拜読する場所まで行きます。これを「練り出し」といいます。そして光照寺住職と善証寺住職が交代で、独特の作法によつて巻物を取り

出し、朗々と読み上げます。

11月8日(火) 午後一時から

◆**結願日中・法話**

結願(最後のお勤めという意味)

お勤めには、正院雅楽会の演奏も入ります。

お勤めは赤本

『正信偈・同朋唱和』を皆さんと共に勤めます。

和讃は、黄色

の本・「西光寺報恩講八日結願日中念仏・和讃」を使います。

和讃は、黄色の本・「西光寺報恩講八日結願日中念仏・和讃」を使います。



* 緑の本・赤本・黄色の本は、本堂に用意してあります。

本年度報恩講のお参りは、三日間とも午後一時からですので、ローソク料等の受付も午後からとなりますのでよろしくお願ひいたします。
西光寺護持委員会

報恩講お浚いのお誘い

◆午前九時からお浚いのお参り

「お浚い」とは、報恩講の全日程と片付けが終わり次第、平常の荘厳に戻されて勤められるお参りです。

西光寺では九日の晨朝(おあさじ)を「お浚い」としてお勤めしています。

正信偈の後に六首の和讃を称えませんが、その一首目が『不了仏智のしるしには』という和讃です。「これで報恩講が終わったと思うな。それは大きな勘違いだぞ」という戒めの和讃です。

これをもって本堂の意味で報恩講が終了になり、これから来年の報恩講へ向けての準備がまたはじまります。



大きなおぼくさん

なお、報恩講中にお供えた大仏飯(おぼくさん)をちらし寿司にし、お参りの皆様にお配りしています。どうかお誘い合わせの上、「お浚い」にもお参り下さい。

お陰様で今年も無事

永代経法要が勤まりました!

六月の大地震により延期していた永代経法要を、十月一日・二日に勤めさせていただきました。

二日間にわたり、富山県氷見市より寺西良夫先生がお越しください、仏



お参りの皆様

いただきました。

お参りくださいました皆様、ご苦勞様でした。

多くの皆様のご懇念により、み教えが代々に受け継がれていくようお願いしつつ、お参りできたことを喜ぶと共に感謝申し上げます。

永代経法要最終日には、西光寺門徒徒総追悼法要も併せてお勤めしました。お参りの皆さまには、読経中お焼香をしていただきました。

前年度物故者追悼法要 勤まる

永代経法要初日に、西光寺門徒前年度物故者二十四名の方の追悼法要が営まれました。

多くの方が、愛する家族との悲しい

別れをご縁として、み教えと出遇っておられます。親を亡くし、連れ合いを亡くし、あるいは子どもさんを亡くされるという、つらく悲しい体験ではありませんが、この私の中のちが終わるとき、やがてまた再会できる場所が真宗門徒にはあります。

お浄土があるということは、「死んだらおしまい」ではないのですね。



令和四年度 永代経志納報告

ローソク料	九七八、〇〇〇円	(二六六戸)
賽銭	三六、三七〇円	一一〇戸
仏供米	一〇四、〇〇〇円	(一一二戸)

お取越しの案内

今年も10月中旬より、岩坂町内を皮切りに、ご門徒のお宅へ一軒一軒お参りする在家報恩講(通称おとりこし)に回っています。

年一回のお取越です、お仏壇のお掃除は念入りに行いましょう。

真鍮製品の輪灯や仏具は真鍮磨きでピカピカになるまで磨きましよう。これを古来「おみがき」と言って家族で行う大切な準備でした。

■ お内仏を掃除しましょう。仏具も磨きましよう。

■ ローソクはできれば赤の和ローソクを用意下さい。無ければ白の和ローソクでも洋ローソクでも結構です。打敷をかけ、おもち・お菓子、果物等ある物で結構ですから仏様にお供えして下さい。

西光寺護持委員会からのお知らせ

令和四年度維持費&修繕費収入合計
一、六五五、〇〇〇円(二七二戸)
(10/4現在)

ご門徒の皆様、西光寺の護持・運営のために維持費&修繕費を納めて頂きましてありがとうございます。護持委員の方々、集金ありがとうございます。

ご志納いただいた維持費&修繕費は、今年度の収支予算書に基づき、西光寺の維持運営並びに広間屋根修繕に使わせていただきます。

本山上がりのお願い 七千円

私たちの宗門・真宗大谷派（東本願寺）は、ご門徒の皆さまからの懇志で成り立っています。

毎年、本山より門徒数に応じて各お寺に宗派運営費が割り当てられます。これを「本山上がり」とよんでいます。

ご門徒さまお一人おひとりのお力によつて本山が維持され、七百余年にわたつて教えが伝えられてきました。

これまで西光寺は、ご門徒の皆さまのご理解と御協力によつて完納することができております。誠に有り難いことと感謝しております。

西光寺維持費・修繕費に引き続き何かと大変かと思いますが、よろしくお願ひいたします。

報恩講の期間中受付にお出し下さい。

連続四十カ年経常費御依頼額完納の表彰を受ける

西光寺もご門徒の皆様のお陰様で、連続して四十年にわたつて、本山からの御依頼額をすべて納めることができました。

今回、本山より連続四十カ年経常費御依頼額完納表彰を受けましたので報告します。

表彰状

能登教区第10組
西光寺殿

常に宗門護持の懇念をつくれ殊に四十カ年の長きにわたり率先して経常費御依頼をご完納いただきましたことはまことに感謝にたえません
よつてここに記念品を贈りこれを表彰し併せて益々法義相續・本願護持のためにご尽力くださいますようお願いいたします

2022年1月15日

宗務部長 本越 淳



が首からかけているもの）を拝受いたしました。

ご門徒の皆様ありがとうございます

墓地管理委員会からのお知らせ

墓地管理費を納付していただいた皆様、ありがとうございます。また、集金していただいた西光寺護持委員の皆様、ありがとうございます。

令和四年度墓地管理費収入合計

二七五、五〇〇円（一七四戸）

（10/4現在）

II 編集後記 II

狭い家に住めば広い家に住む人が羨ましいといい
広い家に住めばこじんまりとした狭い家が良いという

これはある法語の一節です。

広い家に住めば、大きな家具も置ける、友達も呼べると思いますが、広い家に住んでみると、掃除する部屋が多く電気代も高くつくという不満も出ます。

この感覚は私たちの多くが持っています。この感覚を持ったままでは、いつまでたつても不満だらけの生活になります。

しかし、狭い家には狭い家の良さがあり、広い家にも広い家の良さがあります。

私たちは見方を少し変えると良さがわかります。その良さを見つけると、満足感になり感謝になります。

家だけではなく、家族・学校・仕事・出遇う人々など、どれにもどなたにもよいところがあります。そこを探す努力をすると、「与えられたものに感謝する」生活になります。

一つよいところを見つけると、どんどんよいところが見つかり、こころ豊かに過ごせます。

南無阿弥陀仏